

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2020

4

No.830

P2 特集

兵庫県社協令和2年度の主要事業
～地域共生社会の実現に向けて～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」地域での支え合い

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

支え合って、目指せ完走「ぼっかぽか共生マラソン大会」
～ゴールの喜び 誰にでも～

P8 キラリ★社会福祉法人

丹波市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット丹波)
ネットワークで進める「福祉人材確保」と「よろずおせっかい相談所」

P9 私の物語

ボランティアは社会を変える
村井 雅清さん(神戸市)

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション

今月号の表紙は、
北条鉄道と
桜の風景(加西市)だよ



4月2日～8日は「発達障害啓発週間」です



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。



令和元年度 県社協の取り組みから ①社会福祉法人の連携を考えた「地域公益活動推進セミナー」②東日本大震災被災地でのボランティア活動③人材育成の新拠点「福祉人材研修センター」の開所式④人材の確保・育成をテーマにしたホームヘルプ事業者協議会の研修会⑤受け入れが始まった外国人介護技能実習生⑥社協活動の未来像を描く「地域福祉推進計画セミナー」

兵庫県社協 令和2年度の主要事業

～地域共生社会の実現に向けて～



昨年以降、国では、子どもから高齢者までが安心して暮らしていくための社会保障制度の確立を目指す「全世代型社会保障」の議論が進んでいる。また、「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」の最終報告を受けて、今後は、支える側と支えられる側の関係性を越えた、支え合いの地域づくりに向けた事業が本格化し、根幹となる社会福祉法の改正作業も見込まれている。

県社協にとっても、本年度は2020年計画(2016～2020年度)の最終年度であり、国の施策や地域の実情に対応しながら「認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉」を一層進める1年となる。

これらを踏まえ、今号の特集では、県社協の事業方針・主要事業について紹介する。

社会福祉を
取り巻く情勢

令和2年度

厚労省の予算から

厚労省は、人生100年時代に対応した全世代型社会保障の構築をテーマに、「多様な就労・社会参加の促進」「健康寿命延伸等に向けた保健・医療・介護の充実」「安全・安心な暮らしの確保等」を重点項目として、本年度の予算を策定している。【図表1】

人口減少の時代にあっても、経済成長と分配の好循環を目指すという考え方が、予算編成の基盤になっている。特徴としては、従来、社会保障の対象とされてきた高齢者や障害者の就労や社会参加が一層目指されている点、働き方改革を念頭に、医療・介護分野でロボット化やIT化による生産性の向上が目指される点、全ての人が安心して働き・暮らせるセーフティネットとして、子育て支援やひきこもりの方への支援が強調されている点などがある。

図表1 令和2年度 厚生労働省予算案における重点事項(抜粋)

1 多様な就労・社会参加の促進	2 健康寿命延伸等に向けた保健・医療・介護の充実	3 安全・安心な暮らしの確保等
<p>1. 誰もが働きやすい社会の実現に向けた働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 中小企業・小規模事業者に対する支援 長時間労働の是正 最低賃金・賃金上げに向けた生産性向上 <p>2. 全ての人々が意欲・能力をいかして活躍できる環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の就労・社会参加の促進 就職氷河期世代活躍支援プランの実施 女性活躍の推進 障害者の就労促進 外国人材受入れの環境整備 	<p>1. 地域包括ケアシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域医療構想・医師偏在対策・医療従事者働き方改革の推進 介護の受け皿整備、介護人材の確保 認知症施策推進大綱に基づく施策の推進 <p>2. 健康寿命延伸に向けた予防・健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の疾病予防・重症化予防 介護予防・フレイル対策 保険者のインセンティブ強化 <p>3. 生産性向上に向けた医療・福祉サービス改革</p> <ul style="list-style-type: none"> データヘルス改革 ロボット・AI・ICT等の実用化推進 	<p>1. 子どもを産み育てやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育の受け皿整備、保育人材の確保 放課後児童クラブの受け皿整備 児童虐待防止対策・社会的養育の迅速かつ強力な推進 ひとり親家庭等への自立支援 <p>2. 全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合う地域共生社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 断らない相談支援を中核とする包括的支援体制の整備促進 生活困窮者自立支援・ひきこもり支援の強化 障害者施策の総合的な推進 自殺総合対策、依存症対策

この予算の考え方に大きく関係しているのが、昨年12月にまとめられた「地域共生社会に向けた

包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」(以下、「検討会」)の最終報告である。同報告では、制度の縦割りを超え、「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくり」の3事業を一体的に実施することの重要性や、地域共生社会の構築に向けて、市町での包括的な支援体制の整備の必要性が示されている。【図表2】

本年度は、「支える側」「支えられる側」という固定化された考え方を超えて、支え合いの地域づくりをさらに進める挑戦の年であり、地域のアクセスメント力と企画力が問われる年となる。

図表2 検討会で示された市町の新事業の概要

<p>断らない相談支援</p> <p>本人・世帯の属性にかかわらず受け止める →多機関協働の中核として専門職による伴走型支援を担う</p>
<p>参加支援</p> <p>社会とのつながりを回復する支援 →狭間のニーズに対応する、多様な社会参加に向けた支援を実施</p>
<p>地域づくり</p> <p>孤立を防ぎ、多世代の交流や多様な活躍の場を確保 →交流や参加の機会を地域に創り出すコーディネート機能を確保する</p>

県社協の取り組み

県社協では、国の動きと連動しつつ、県内の福祉ニーズに目を向けながら、次の方針で事業を展開

していく。

まず、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンでは、取り組みの最終年度として、県民フォーラムや地域フォーラムの開催に加え、「ユニバーサルカフェ」の開設を引き続き支援する。

地域福祉の推進としては、「地域福祉・介護サービス事業経営調査研究事業」を継続実施し、市町社協の組織基盤強化を支援するとともに、社会福祉法人の地域公益活動を推進する事業に取り組む。

福祉・介護人材確保では、福祉のしごとPR事業や、職員の奨学金返済を支援する社会福祉法人への補助事業を新たに実施する。

また、総合相談・生活支援の充実では、「権利擁護・成年後見推進事業」を立ち上げ、成年後見制度利用促進法への対応を念頭に市町域の体制整備を支援する。

さらには、地域共生社会の時代を見据えた県社協の2025年計画(仮称)を幅広い議論を経て策定する予定である。

事業計画の概要は、次のページをご覧ください。

事業方針

令和2年度は、社会福祉を取り巻く情勢を踏まえ、最終年度となる「県社協2020年計画」(2016～2020年度)およびその実行計画の着実な推進を図るため、県社協会員をはじめ関係機関・団体などと連携して“支え合い社会”の実現に向けて着実な事業推進を図ります。



各地で取り組まれる地域フォーラム

Action3 「総合相談・生活支援」の充実と体制強化を支援します

誰もが地域で自立した生活を送れるよう、市町社協や社会福祉法人・施設、NPO、行政などの関係機関・団体と民生委員・児童委員、地域住民が連携した「総合相談・生活支援」の充実に向けて、当事者の主体形成や専門機関などによる支援の質の向上、地域における包括的な支援体制の構築を進めます。

新規 兵庫県権利擁護・成年後見推進事業

成年後見制度利用促進法施行に伴う地域連携ネットワークの構築や中核となる機関の設置に向けた動きを包括的な支援体制や総合相談につなげていくため、兵庫県権利擁護・成年後見推進会議や権利擁護推進フォーラムの開催を通じて、「権利擁護支援センター」「成年後見支援センター」を核にした市町域の権利擁護体制づくりを進めます。



法人後見・市民後見推進会議の様子

Action4 幅広い主体や社会資源がつながる地域づくりを支援します

多様な地域課題の解決や災害時の被災者支援などに向けて、さまざまな価値観に基づく地域の「支え合う関係」や「つながりの再構築」を基盤に、ボランティアグループやNPOなどの幅広い主体が力を結集し、連携・協働する地域づくりを推進します。

拡充 災害救援ボランティア活動支援事業

平時からの災害ボランティア支援体制や人材養成を進めるため、災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議や災害ボランティアコーディネーター養成研修を実施します。

継続 大規模災害ボランティア活動応援プロジェクトの実施

大規模災害時にボランティア活動を行う団体・グループに係る交通費などの一部を助成します。

新規 全国地域包括・在宅介護支援センター協議会研究大会の開催協力

新規 日本地域福祉学会第34回大会の開催協力



災害ボランティア連携訓練の様子



被災地(佐賀県)における先遣隊の活動の様子

事業展開に向けた組織基盤強化等

県社協会員と共に組織基盤強化を着実に推進しながら、組織や業務の管理体制の確立を図ります。

新規 「県社協2025年計画(仮称)」の策定

兵庫県社会福祉協議会 令和2年度事業計画の概要

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの推進

「地域での支え合いをすすめよう!」をテーマに、全県キャンペーンの最終年度としてキャンペーン事業の総括を行います。

- 全県キャンペーン推進協議会の運営
- 地域フォーラムの開催
- 「支え合い社会」県民フォーラムの開催
- ユニバーサルカフェ開設応援事業
- パンフレット・チラシ、広報資材の作成・配布

県社協2020年計画のアクションプランに基づく取り組み

Action1 市町社協と共に地域福祉の基盤づくりを推進します

市町域における課題解決のネットワークを構築し、地域福祉推進の基盤強化を進める上で、市町社協がコーディネーターとしての役割を発揮できるよう、市町社協と共に課題への対応方策について検討・研究を行うとともに、全県的な地域福祉推進上の課題解決に向けた検討の場づくりや政策提言を行います。

拡充 地域福祉・介護サービス事業経営調査研究事業

社協の介護・障害サービス事業の経営改善に向けて、「地域福祉・介護サービス事業経営検討会議」を開催するほか、ブロック別介護職員交流・勉強会を開催します(3カ所程度)。



住民と協働して取り組む、社協のサービス事業

Action2 地域福祉を進める組織・福祉専門職養成を支援します

一人一人の尊厳ある生活を総合的に支える視点で、福祉サービスの一層の質の向上を進めるため、県内社会福祉法人が地域福祉の推進役としてサービスの水準をリードできるよう、施設種別協議会や幅広い団体・機関と連携・協働し、法人の経営支援および福祉人材確保と養成の充実・強化を図ります。

拡充 社会福祉法人地域公益活動推進事業の実施

「社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット)」の設置促進を引き続き図っていくとともに、設立後の各連絡協議会の活動がより活発に、そして充実したものとなるよう助成支援を行います。



ほっとかへんネットロゴマーク

新規 社会福祉法人就業者確保支援事業の実施

自法人職員に対する奨学金返済支援制度を有する法人に対し、その負担額の一部を補助します。

新規 福祉のしごとをPRするための事業の推進

福祉のしごとに関する啓発用プロモーションビデオの作成や教職員向けのイメージアップ対策を実施します。



福祉の就職総合フェアの様子

拡充 「ひょうご外国人介護実習支援センター」の運営

技能実習生相談員や国際調整専門員(仮称)を設置し、技能実習生の円滑な受入実現を図ります。

拡充 社会福祉専門研修事業・福祉マネジメント研修事業の実施

サービス提供や経営に必要な資質の向上を図るため、コミュニケーション基礎研修やリーダーシップ研修、コーチング研修を実施します。



福祉人材研修センターで実施する研修の様子



「ストップ・ザ・無縁社会」

地域での支え合い

<http://stop-muen.jp>

TOPICS

“支え合い社会”に向けて開催された地域フォーラム

先月号に続き、各地で取り組まれた地域フォーラムの様子をレポートします。

「支え手」「受け手」の関係を越えた地域共生のまちづくりを目指して

灘区社協では、12月15日に「第2回地域共生社会づくりフォーラムなど」を開催しました。

武庫川女子大学・松端克文教授をコーディネーターに迎えたパネルディスカッションでは、見守りの対象者である高齢者自らが電話リレーで365日の見守りをを行っている実践や気軽に集えるカフェの実践などが発表されました。

参加者同士での意見交換を行ったグループワークでは、電話リレーの活動について「熱心に取り組まれている様子が分かり、取り入れようと思った」「住民の関係が希薄なところでは、どう進めれば良いか考える機会となった」といった意見が出され、支え合いの地域づくりに向けて、地域で実践できる取り組みを考える1日となりました。



三田から「つながり・見守り・支え合い」の大切さを発信

三田市社協では、1月25日に「令和元年度三田市社会福祉大会」を開催し、約310人の参加がありました。

落語家の露の団^{つゆ まるこ}姫さん、太神楽^{だいかぐら}曲芸師の豊来家^{ほうらいや}大治朗^{だいじろう}さんによる記念講演では、「あなたのまわりの発達障害～ともにイキイキ生きるには～」をテーマに、発達障害について諸症状から家族や友達などの周りの方の心掛けなどをお話いただきました。お二人の落語・太神楽とともに楽しみながら理解を深められる良い機会となりました。

また、市内事業所・グループによる“ふくしまルシェ”や関西学院大学・井村研究室協力の“認知症VR体験”、登録ボランティアグループによる“ボランティアカフェ”など、福祉を身近に感じ、楽しめるイベントも実施し、「つながり・見守り・支え合い」の大切さを発信しました。



「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン 令和2年度の取り組み

3月6日、県福祉センターにて、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン幹事会が開催され、令和2年度の事業計画について協議しました。

本年度もキャンペーンでは、「支え合い社会」に向けて、「集いの場・学びの場・支え合いの場」を各地に創出するために、市区町社協や社会福祉法人、関係団体と協働した取り組みを進めます。

主な実施事業

- 「支え合い社会」県民フォーラムの開催(8月21日に開催予定)
- 地域フォーラムの開催(県内複数カ所で実施)
- ユニバーサルカフェ開設応援助成事業の実施
- 社会福祉法人による地域公益活動の促進に向けた取り組み(各市区町村の「ほっとかへんネット」との連携)
- 支え合い社会に向けた、広報・啓発活動(ひょうごの福祉などの媒体や、兵庫県社会福祉大会などのイベントを通じた発信)

みんなで作るひょうごの福祉



支え合って、目指せ完走 「ぽっかぽか共生マラソン大会」

「ゴールの喜び 誰にでも」

今回は、年齢や障害の有無にかかわらず、参加者が励ましかつてみんながゴールできる共生マラソン大会を実施した、宝塚市の「NPO法人ぽっかぽかランナーズ」を紹介するよ。

年齢、障害の有無を問わず、自分のペースで

2月24日、早春の武庫川河川敷に、約250名のランナーが集まった。幼児から高齢者まで年齢層は幅広く、車いす利用者や知的障害者、難病を抱える人も多い。

主催するのは、「NPO法人ぽっかぽかランナーズ」。理事長の林さんの次男は難病患者であるが、マラソンが大好きなため、多くの仲間と走れるようにと平成25年に同法人を設立。マラソン銀メダリストの有森裕子さんの



スタート前、笑顔いっぱいの参加者たち

アドバイザーも得て、障害ランナーのマラソン参加を支援してきた。具体的には、障害者に伴走するボランティアの紹介、歩行が困難なランナーが使う足こぎ車いすの貸し出しなどの活動だ。

以来、次男と仲間は、各地の大会に出場したが、時間制限を設ける大会が増え、途中で完走を断念

せざるを得ないなど悔しい思いもしてきた。そこで、参加者が励まし合って、みんながゴールの喜びや達成感を得られる独自の大会を企画した。

さまざまな工夫を取り入れ、ユニバーサルな大会へ

「ぽっかぽか共生マラソン大会」には、各地の大会に参加して気付いたことをさまざまな工夫として盛り込んだ。例えば、1往復1.5kmのコースを、何度もすれ違い励まし合えるようにし、体力に応じた多様な部門を用意。リストバンドを計器にタッチするだけでタイムを測定できる仕組みも導入した。また、ボランティアの伴走ランナーの育成に努めたり、障害者が使いやすい更衣室の設置など態勢も整えた。

ひょうごボランティアプラザの助成金や、企業からの協力・協賛も活用し、地元宝塚市からは、小学校への広報、ノウハウや資材の提供など全面的な協力を得て、地域社会との連携も深めた。「多くの関係者の協力で開催できた。



励まし合いながらゴールへ
(左の写真は、リストバンド)

参加者からも、来年も参加したいとの声を頂き自信になった」と林さんは振り返る。

年齢や障害の有無などを超えて、地域社会をつなぐユニークな取り組みの展開に期待したい。

取材を終えて

多くの人を巻き込んだ大会になげた林さんのバイタリティーある姿が印象的でした。笑顔でゴールするランナーの姿を見て、共生社会について改めて考えるきっかけとなりました。

認定特定非営利活動法人

ぽっかぽかランナーズ

宝塚市売布山手町6-1-1

URL: <https://www.pokarun.com/>

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人

丹波市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット丹波)

ネットワークで進める「福祉人材確保」と「よろずおせっかい相談所」

「ほっとかへんネット丹波」は、平成27年9月に設立され、市内全ての社会福祉法人(18法人)が参画している。

今回は、高校生や移住希望者などを対象とした人材確保の取り組みや、よろずおせっかい相談所について紹介する。

目立つ色を使ったタスキやノボリで「ほっとかへんネット丹波」をPR



福祉人材の不足は地域の課題

同市では、ネットワークの設立以来、社会福祉法人が連携して何ができるのか、行政も含めて協議を重ねた。そんな中、全法人の課題として挙げられたのが、「福祉人材の不足への対応」であった。人材不足で安定したサービスが実施できなくなると、住民ニーズに応えられず、若年者の流出で人口減少傾向にある地域に悪影響を及ぼす。そんな危機感が法人間で共有された。

そこで、市外からの転入を促すため、学生を対象とした「奨学金返済支援補助金」、介護福祉士や保育士などの女性有資格者を対象とした「女性有資格者人材バンク」「有資格者家賃補助制度」といった仕組みを、法人が連携して行政に提言し、制度化に結び付けた。また、市内の高校生を対象とした施設見学やショッピングモールでの就職フェア、移住希望者向けの施設見学ツアーも実施している。

社会福祉法人が連携したこれらの取り組みは、生まれ育った土地での就労の後押しとなり、丹波へのUターンや移住を希望する人には安心できる雇用の提供にもなっている。福祉人材の確保という課題への取り組みは、地域の活性化にもつながっている。

安心して住み続けられる地域を目指して

協議をきっかけに始められたもう一つの取り組みが「よろずおせっかい相談所」だ。全ての社会福祉法人が事業所に看板を掲げ、いつでも住民が相談できる環境を整えている。「住民の『困った』という声を受け止める窓口でありたい。看板を掲げ続け、身近な所に窓口があると安心してもらえることが大事」と、澤村安由里代表(社会福祉法人山路福祉会)は話す。

さらに、昨年度は、社会福祉法人や行政、社協の職員を交えた「地域づくり懇談会」を開催し、日頃感じている地域の課題について検討したり、補助金を活用した広報ツールを用いて市内のイベントで「ほっとかへんネット丹波」のPRに取り組んだ。これらを通して、各法人の代表者同士で、顔の見える関係が構築されてきたため、今後は、職員などの実務者同士の関係づくりに力を入れる予定だ。

「地域の課題解決に向けて、社協や社会福祉法人、行政などが連携して取り組むことで、安心して住み続けられる地域づくりを共に目指したい。異なる法人の職員が一堂に会する機会を増やし、そのような意識をみんなで共有して取り組んでいきたい」と、澤村代表は、今後の意気込みを語った。



懇談会では「移動手段」や「つながりの希薄化」などの課題が出されました

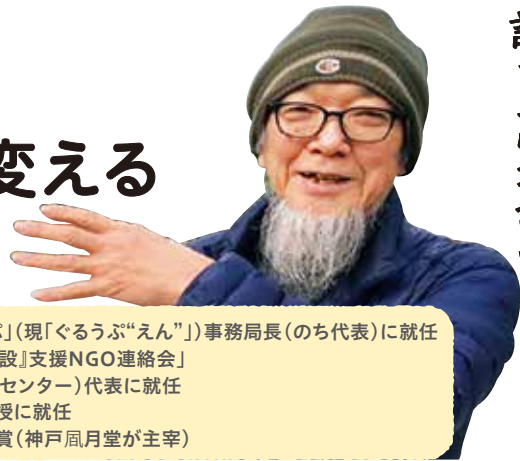
ほっとかへんネット丹波
事務局:社会福祉法人丹波市社会福祉協議会
TEL:0795-82-4631

良い師を持ち、
感謝を忘れない



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

ボランティアは社会を変える



Personal History

平成7年 「ちびくろ救援ぐるうぶ」(現「ぐるうぶ“えん”」)事務局長(のち代表)に就任
平成8年 「阪神・淡路大震災『仮設』支援NGO連絡会」(現:被災地NGO協働センター)代表に就任
平成18年 神戸学院大学客員教授に就任
平成23年 第21回ロドリゴ賞受賞(神戸風月堂が主宰)

むらい まさきよ
村井 雅清さん
(神戸市)

「阪神・淡路大震災による
大きな転機」



ちびくろ救援ぐるうぶでのミーティング風景

神戸市内の高校を卒業後、自分の工房を持ち、障害者も対象としたオーダーメイドの革靴を作る職人だった私は、日々喜びとやりがいを持って仕事に励んでいました。

震災当日は、仕事で東京におり、変わり果てた神戸の姿をテレビで知りました。翌日、何とか神戸に戻り、工房も甚大な被害を受けた中、「長田を活気のある街に戻したいー何かできることはないかー」という一心から必死になり、友人などから被害情報をかき集めました。その時、兵庫区内にある保育園の園長から、「公園に集まっている、

行き場のない人たちを支援するグループの立ち上げと支援(「ちびくろ救援ぐるうぶ」)を手伝ってほしい」と依頼を受け、復興支援活動に従事しました。その後の人生の大半を支援活動に身を置くきっかけでした。そして、8月には自分が代表となり「被災地NGO協働センター」を設立しました。

「初心者でも
ボランティアはできる」

阪神・淡路大震災では、ボランティアの多くが初心者でした。災害ボランティアに関して、近年、流布している「初心者には現場を混乱させる。十分な準備もせずに被災地に行くべきではない」という言説に危機感を覚えています。私自身も、支援活動を通して、自分の息子と同年代の若者と意見を出し合う機会も多く、学ぶことはたくさんあると感じます。ボランティアに上下関係はありませんし、経験豊富な人だけが求められているわけではありません。多様なボランティアが現地に入り、被災者の懐に入り込んで、本当に困っていることや求めていること

を理解すること。そして、被災者を尊重した支援をすることが、ボランティア活動にとって大切だと思います。



ちびくろ救援ぐるうぶのメンバー
(左から4番目が村井さん)

「信念を受け継ぐ」

私のこの信念は、震災直後に「ちびくろ救援ぐるうぶ」で一緒に活動した、佐賀県武雄市の「おもやい」*ボランティアセンター」を運営する鈴木隆太さんが引き継いでくれるでしょう。そして、「最後の一人が復興するまで一緒に見届ける」ことを基本方針とする同センターに、大きな期待を寄せています。

※「おもやい」
地元の方で、「一緒に」という意味。

災害ボランティアコーディネーターの役割を考える

2月17日、ひょうごボランティアプラザは、「災害ボランティアコーディネーター養成研修(応用編)」を開催し、県内市区町村社協の事務局長や職員ら43名が参加した。

研修では、昨年度発生した水害で福島県に派遣された神戸市社協の有森孝輔氏と姫路市社協の渡邊越子氏から、社協が設置した災害ボランティアセンター(以下、「災害VC」)の取り組みについて、また、被災地NGO協働センターの頼政良太代表からは、佐賀県でボランティア団体が立ち上げた災害VCの取り組みについての事例報告があった。

また、災害VCを設置・運営する上での課題をテーマにグループ討議を行った後、最後にはファシリテーターを務めた、にいがた災害ボランティアネットワークの李仁鉄理事長から、「災害対応は日常業務の延長であり、普段から地域住民の総合的な相談対応を進める社協の取り組みが、災害時

に生きてくる」と災害多発時代の社協に助言とエールを頂いた。



「受援力の向上」「災害VCの閉所と被災地の復興」などについて議論

ひょうご外国人介護実習支援センターのホームページが完成しました

ひょうご外国人介護実習支援センターは、本年3月にホームページを開設しました。今後は、同ホームページ上で、介護技能実習に関連した情報発信に力を入れていきます。

URL : <https://hyogo-ktsc.org/>

地域共生社会の実現に向けた政策動向を探る

市町村における包括的な支援体制構築のための新たな事業が社会福祉法に位置付けられる方針が決まるなど、「地域共生社会」の実現に向けた福祉政策が動き出している。

そこで、2月21日の「県内社協事務局長会議」では、厚生労働省地域福祉課の吉田昌司氏による講演会を開催し、「地域共生社会推進検討会」の論点と新たな事業の考え方について学んだ。講演会は、社協に加えて市町村行政の地域福祉担当課も対象とし、77名が参加した。

新たな事業は、令和3年度から任意事業としての開始が予定されており、課題を抱える全ての地域住民が対象となる。事業の枠組みは、「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの支援の一体的な推進である。

講演会では、新たな事業について、2点が強調された。1つ目は、事業を一からつくるというより、

既存の取り組みや機関などを生かして進めていくという点である。2つ目は、地域住民や関係機関などと十分に話し合い、試行錯誤のプロセスを経て、自治体に合った仕組みや体制をつくるという点である。

今後、各市町において、まずは地域住民や関係者を交えて包括的な支援体制づくりに向けた協議が始まり、地域福祉計画で位置付けられることが望まれる。



包括的な支援体制は「協議のプロセスが重要」と話す吉田昌司氏(厚生労働省 地域福祉課 生活困窮者自立支援室・地域共生社会推進室 室長)



講師の松尾氏と共に、今抱える現場の課題について熱心な検討がされた

「子どもの理解と発達支援研修」を開催

2月21日、福祉人材研修センターでは、「子どもの理解と発達支援研修」を開催した。

質の高い保育・支援に欠かせない子ども（家族含む）のアセスメント（環境理解の視点）の基本と活用をテーマとしたこの研修には、保育所、児童養護施設、障害児施設などの職員59名が参加した。

研修では、自閉スペクトラム症や学習障害（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）などの特性や行動への対応の基本を学ぶとともに、参加者が現場で抱える事例を持ち寄り、日頃の支援を検討し合う時間も盛り

込み、具体的な支援の在り方を深める場となった。

講師の松尾寛子氏（神戸常盤大学准教授）からは、気になる子どもを見る時、専門職である自分自身を客観的に振り返る大切さや、子どもの強みと弱みを把握し、短期目標を積み重ねることで子どもと支援者の双方が達成感を共有することの大切さなど、多くの重要な視点や考え方が伝えられた。

受講者からは、「具体的な気付きやアドバイスをたくさん得られた。明日からさっそく実践したい」などの感想が寄せられ、充実した1日となった。

兵庫県福祉人材研修センターからのお知らせ 年間の研修開催予定一覧を掲載しました

本年度に開催する社会福祉従事者向け研修の開催予定一覧をホームページに掲載しています。

より見やすく、使いやすくなったホームページをぜひご活用ください。

URL : <https://hfkensyu.com>

兵庫県福祉人材研修センター

検索



寄付・寄贈のお礼

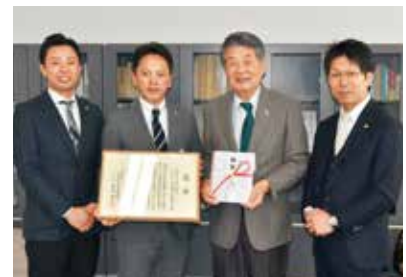
1月15日、(株)ケーエスケーより車いすが寄贈された。

今回の寄贈は、同社創立20年を記念した社会貢献活動の一環で、寄贈式では、寄贈先を調整した県老人福祉事業協会伊富貴会長に目録が贈呈され、寄贈者には吉本会長から感謝状を贈呈した。

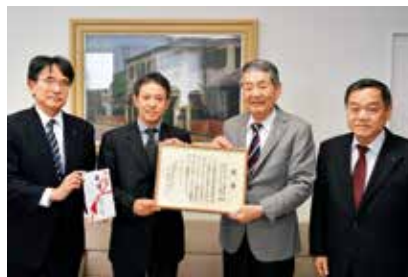


寄贈された20台の車いすは、県内の高齢者福祉施設で広く活用される

1月31日、公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会兵庫県協会から県内の児童福祉の推進を目的として、兵庫善意銀行に寄付金が贈呈され、吉本会長から感謝状を贈呈した。頂いた寄付金は、児童福祉、母子福祉への支援活動や推進に役立てていく。



寄付金は、児童福祉や母子福祉の推進に役立てられる



車いすは、明石市社協で住民への貸出しや福祉学習に活用される

2月7日、(株)NTTドコモ関西支社、(株)ドコモCS関西から兵庫善意銀行に車いす1台が寄贈され、吉本会長から感謝状を贈呈した。ドコモ関西グループは、社会貢献活動として、プルタブ回収に取り組んでおり、集めたプルタブ(約750kg)を車いすに交換する活動を進めておられる。

INFORMATION

助成金情報

県社協「ひょうごボランティアプラザ」のWEBサイトでは助成金情報を多数掲載しています。



公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団 配食車贈呈事業

高齢者や障害者を対象にした配食サービスを展開しているボランティアや民間団体、施設などに配食サービス車を贈呈します。

対象 高齢者や障害者らを対象にした配食サービスを行っているボランティアや民間団体、施設など

内容 年間1台の配食サービス車を贈呈

締切り 令和2年5月15日(金) 必着

問 申 毎日新聞大阪社会事業団
TEL 06-6346-1180

URL https://www.mainichi.co.jp/osaka_shakaijigyō/

第37回「老後を豊かにするボランティア活動資金」

助成事業(みずほ教育福祉財団)

高齢者を主な対象として活動するボランティアグループ及び地域共生社会の実現につながる活動を行う高齢者中心のボランティアグループに対し、活動で継続的に使う用具・機器類の取得資金を助成します。

対象 助成の趣旨に沿った活動を行っている小規模なボランティアグループで必要条件を満たすもの。①グループメンバー:10~50人程度 ②グループ結成以来の活動実績:2年以上 など
助成額 1グループにつき10万円を上限(計110グループ程度)

締切り 令和2年5月22日(金) 必着

問 申 公益財団法人 みずほ教育福祉財団 福祉事業部
TEL 03-3596-4532

URL <http://www.mizuho-ewf.or.jp/>

募集

ひょうごユニバーサル社会づくり賞募集

「全ての人が主体的に生き、支え合う社会」の実現に向けて取り組んでいる県内の活動を募集し、「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」として顕彰します。

推薦対象 ユニバーサル社会づくりの見本となる率先した活動を行っている、県内に在住、または活動の拠点を置く個人、団体、企業

推薦方法 推薦用紙に必要事項を記入のうえ、ユニバーサル推進課に提出。※自薦・他薦不問

締切り 令和2年5月15日(金)

問 申 兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課
TEL 078-362-4379

URL <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/universal/shakaidukuri.html>

行事予定

4月14日~ 介護支援専門員更新研修B・再研修
◆神戸ファッションマートほか

16日~ 介護支援専門員専門研修課程I・更新研修A(前期)

20・21日 ◆県福祉人材研修センターほか
社会福祉協議会新任局長・職員研修

◆県福祉人材研修センター

23日 経営協第255回理事会

◆県福祉センター

28日 日常生活自立支援事業新任専門員研修会

◆県福祉センター

5月11日 ボランティア・基金助成事業説明会(神戸)

◆神戸クリスタルタワー

12日 ボランティア・基金助成事業説明会(姫路)

◆県姫路職員福利センター

経営協総会・記念講演会

◆神戸メリケンパークオリエンタルホテル

13日 ボランティア・基金助成事業説明会(豊岡)

◆豊岡市民プラザ

14日 生活福祉資金新任担当職員研修会

◆県福祉センター

児童福祉新任職員研修

◆県福祉人材研修センター

25日 保育所等新任保育士研修Aコース

◆県福祉人材研修センター

27日 人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修Aコース

◆県福祉人材研修センター

28日 障害福祉新任職員研修Aコース

◆県福祉人材研修センター

県社協職員異動・昇任

令和2年4月1日付、[]内は前職名等

事務局次長(企画経理担当)[事務局次長(福祉推進担当)] 馬場 正一

事務局次長(福祉推進担当)[昇任・福祉支援部長] 杉田 健治

企画部長[福祉人材研修センター研修第2部長] 新屋 幸子

経理部副部長[ひょうごボランティアプラザ交流支援部副部長] 北川 聡

地域福祉部長[企画部長] 戸田 達男

同 副部長[昇任・事務局主任(共同募金会派遣)] 松本 裕一

同 主事[新規採用] 小山 洋平

福祉事業部主任[福祉支援部主任] 岸田 彰範

同 主事[新規採用] 久保 愛美

福祉支援部長[昇任・地域福祉部部長心得] 荻田 藍子

同 主任[事務局主任(県高齢政策課派遣)] 西浦 耕太

同 主事[新規採用] 外川 貴啓

福祉人材研修センター所長[新規採用] 大西 能成

同 研修第1部主任[経理部主任] 井筒 隆久

同 研修第2部長[昇任・福祉人材研修センター研修第1部副部長] 宿院 耕平

ひょうごボランティアプラザ次長兼総務調整部長[県派遣・県子ども病院総務部] 西森 玲治

同 総務調整部副部長[県派遣・神戸県民センター県民交流室総務防災課] 豊島 正明

同 交流支援部長[県派遣・産業労働部政策労働局政策課] 岸田 育也

同 主任[地域福祉部主任] 鬼城 良一

派遣

令和2年4月1日付、[]内は前職名等

事務局主事(県共同募金会派遣)[福祉事業部主事] 生田 江利世

同 主事(県高齢政策課派遣)[福祉人材研修センター研修第2部主事] 石井 美沙季

退職

令和2年3月31日付

事務局次長(企画経理担当) 福島 真司

福祉事業部主事 塩谷 綾花

福祉人材研修センター所長 武中 初枝

ひょうごボランティアプラザ次長兼総務調整部長(県派遣終了) 沖本 通浩

同 総務調整部副部長(県派遣終了) 鎌田 一志

同 交流支援部長(県派遣終了) 佐々木 千絵子

白石の常備薬幹旋

セルフケア・セルフメディケーションで
いきいき元気な毎日を!
軽い病気やけがは自分で手当てを!



事業内容 全国の健康保険組合、共済組合への 医薬品の販売 医薬部外品及び化粧品の販売
嗜好飲料及び栄養食品の販売 計量器、医療器具、医療機器、衛生材料、記念品、
スポーツ用品などの販売健康サポート推進事業



白石薬品株式会社

〒567-0005 大阪府茨木市五日市1丁目10番33号
TEL072-622-8500 FAX072-622-8510

大阪営業部 TEL072-961-7471

名古屋営業部 TEL052-757-5552

九州営業部 TEL092-741-8952

札幌営業部 TEL011-860-7123

東京営業部 TEL03-5827-4614

